

令和6年度 運営に関する計画

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】について

令和5年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて組織的に対応した割合を100%にすることができた。

月一回の生活指導部会を行い、課題児童の情報を共有することができた。学級や学年単位での解決が難しい場合、ケース会議を設け組織全体で解決に向けた話し合いを行うことができた。

令和4年度の校内調査における「学校のきまりを守っている」項目について、肯定的回答の児童の割合が89.2%であった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】について

令和5年度の小学校学力経年調査の結果から「小学校学力経年調査における標準化得点を前年度より向上させる」目標については、3学年中1学年で達成することができた。すべての学年において、向上がみられた。

令和5年度の体力の向上について、「全国体力・運動能力、運動習慣調査」の結果から、男女ともに握力、上体起こし（いずれも5年生）においては、全国平均を上回ることができた。男子は50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、女子は反復横跳びでも、全国平均を上回る結果となつた。

【学びを支える教育環境の充実】について

「教育DXの推進」に関しては、様々なクラスにおいて週に3回以上、デジタル教科書や動画、タイピング、3Dペイント、パワーポイントで発表するなど、ICT機器を活用した学習を行うことがほとんどのクラスでできていた。プログラミング学習は、ビスケットやスクラッチを使い、年間計画にしたがって、実施することができたが、より柔軟に実施できる年間計画を設定する工夫が求められた。また、ICT支援員を活用しながらスカイメニューなどを活用し、自由な実践ができるようにしたい。

「心の天気」については、毎日入力することが習慣化していた学級では、個別に理由を聞くなどして心の状態が把握できていたことが多かったが、毎日入力していくても確認・活用はできていないという学級も見られた。さらに一人1台端末を開いて打ち込むことに時間がかかったり、入力させる時間がなかったりという理由から、毎日入力できない学級も多かった。今後は「心の天気」についての理解を深め、入力する時間を週1回でも確保するようにし、習慣化できるようにしていきたい。

「働き方改革の推進」に関しては、ゆとりの日を設けることで、一週間の予定の立て方を工夫し、効率よく業務をこなせるよう意識することができるという意見が多く聞かれ、長時間労働の改善に有効なシステムとなっている。

ゆとりの日を2週間に1回は設定できるよう、教員の仕事の削減や精選を考えたり、日々の休憩時間が確保できたりするような業務改善を検討する。働き方改革を推進するため、学校行事が過度な負担とならないような工夫や配慮も必要である。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

いじめに関しては、3年度からスマートスクールのアンケート機能において、毎月調査できる環境となった。「心の天気」や「相談申告機能」も含め、早期発見・早期対応につなげていく。認知したいじめについては、個々に聞き取りを行い、解決に向けて迅速に対応し、解消するよう努める。同時に情報の共有、校内の支援、外部機関との連携など

迅速に対応できるよう体制を整えていく。また、学級において日々の声かけや人権教育を通して仲間づくりの大切さについて指導していく。

学校のきまり・規則を守る指導については、「きまりや規則が互いが安全で安心して生活するために大切にしなければならないという」意味をとらえられるようして指導していく。毎月設定した生活目標を中心に、指導すべきことを教職員間で共有し、児童朝礼で児童への振り返りを行っていく。重ねて指導するとともに、各教職員が守っていないことを見逃さず指導していくよう共通理解を図っていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

研究部に学力向上担当を位置づけ、学力の向上をすすめていく。小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させるよう努める。

体力運動能力の向上については体育部を中心に取り組みますすめていく。小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学習系システム・校務系システムの移行を適切に行い、円滑に活用できるよう環境を整える。その上で、デジタル機器を活用した教育活動の充実を図る。「スマートスクール」については児童が円滑に活用できるよう指導をすすめる。デジタル教材については、日々の授業での活用をすすめる。家庭との双方向通信は全学年で定期的に実施し、オンライン学習にも取り組むことができるよう環境を整える。タブレットによるナビマを使った学習もすすめ、児童が自主的に学習に取り組めるようにする。プログラミング学習は、年間計画に基づいて実施していく。

働き方改革については、学校行事・校務分掌の見直しによって、その価値を重視しながらも負担なくすすめられるよう精選していく。令和4年度からは専科指導を導入し、学級担任の授業時数・担当教科による負担軽減を図り、これを継続していく。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 令和 5 年度末の学校アンケート調査における「学校のきまりを守っている」「まあまあそう思う」と答える児童の割合を 85%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>「いじめ」が起こりにくい学級の取り組み、「いじめ」が起こっても解決し、のりこえていく学級集団づくりを推進する。</p>	
<p>指標 日々の教育活動や道徳、人権教育実践を通して、なかまづくりができるような取り組みをすすめる。また、学期に一回いじめアンケートを行い、いじめの実態を調査する。学校で認知したいじめについて、解消に向けた対応の割合を 100 %にする。</p>	
<p>取組内容②【施策 1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>生活指導部会や職員連絡会で情報を共有し、支援の必要な児童や不登校や学校に来づらくなっている児童に対して組織的に対応する。</p>	
<p>指標 生活指導部会、職員連絡会を月一回以上実施し、児童の情報共有を図る。生活指導部会では、出席票をもとに欠席が目立つ児童を特定し、ケース会議を行う。また、不登校や行き渋り児童の対応として、スクールソポーターとの連携をすすめていく。また、学期に一回以上 SSW や SC などの外部組織と連携する。</p>	
<p>取組内容③【施策 2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳の年間指導計画に基づいて児童の実態に即した指導を行い、思いやりの気持ちをもち、きまりを守ろうとする心を養う。</p>	
<p>指標 道徳ノートや I C T 機器を活用しながら、すべての題材に取り組む。また、「きまり・思いやり週間」における、学校アンケートの結果を 80%以上にする。</p>	

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を50%以上にする。 ・令和6年度の「シャトルラン」を年度初めと年度終わりの2回測定し、2回目の平均記録を1回目の平均記録より向上させる。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】（「主体的・対話的で深い学び」の推進） 「主体的・対話的で深い学び」がある授業を目指す。</p> <p>指標 ペアやグループで交流する機会を1日に1回以上、授業中に設定する。</p>	
<p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】（英語教育の強化） 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の力を育成する英語教育を行う。</p> <p>指標 週2回英語タイムを設定し、外国語に親しませる。また、学校アンケートで、「外国語活動が好き」と答える児童を75%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】（言語活動・理数教育の充実） 学力の向上に向け、基礎・基本を定着させ、個に応じた指導を行う。</p> <p>指標 週1回、ぐんぐんタイムを設け、算数や国語の基礎・基本の定着を図る。確認テストを行い、正答率が伸びた児童の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【4 誰一人取り残さない学力の向上】（言語活動・理数教育の充実） 実験・観察や、総合的な学習の時間と関連させて、体験活動を多くする。</p> <p>指標 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【5 健やかな体の育成】（体力・運動能力向上のための取組の推進） 児童の体力向上に向けた取り組みを推進する。</p>	

指標 学校アンケートにおける「よく運動場であそんだり、進んで運動したりしている」の項目で肯定的な回答をしている児童の割合を70%以上にする。

取組内容⑥【5 健やかな体の育成】(健康教育・食育の推進)

児童の規則正しい生活習慣が身につくよう、発達段階に応じた指導を実施する。

指標 学期に1回「早寝・早起き・朝ごはん週間」を設定し、児童の生活習慣の改善を図る。また、「保健だより」「給食だより」「栄養ニュース」を毎月発行し、児童の正しい生活習慣について指導したり、保護者への啓発につなげたりする。

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。 ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。 ・学校アンケートにおける「タブレットを使った授業は楽しいですか。」に対して、肯定的な回答する児童の割合を<u>80%以上</u>にする。 ・学校アンケートにおける「心の天気」に自分の気持ちを入力することができましたか。」に対して、肯定的な回答する児童の割合を<u>80%以上</u>にする。 ・「ゆとりの日」を毎月2回以上、長期休業期間の「閉庁日」を5日以上設定する。 ・「いいとこみつけ」の記入をすすめることにより、すべての教職員が児童の学校生活に目を向ける機会を増やし、児童の自己肯定感を培うことにつなげる。また記入する時間が確保しやすいよう、学校行事の設定を工夫する。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向 6 教育DXの推進】(ICTを活用した教育の推進) 授業の中でICT機器を活用し、基礎的基本的な内容を定着できるように指導を工夫する。	
指標 每日、デジタル教材等ICT機器を活用した授業を実施する。	
取組内容② 【基本的な方向 6 教育DXの推進】(教育ビッグデータの活用) 「心の天気」や「いいとこみつけ」を活用することで、児童の心の状態や日々の生活状況を可視化し、児童理解を深める。	
指標 毎日「心の天気」を入力させ、生活指導の場で活用する。	
取組内容③ 【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 (働き方改革の推進) ゆとりの日(「さくらの日」)や長期休業期間の閉庁日、日々の休憩時間を設定する。	
指標 超過勤務の削減を推進するため、毎月2回以上のゆとりの日を設定、休憩室の確保と維持、休憩時間をできるだけとするなど措置を講ずる。また、長期休業期間に閉庁日を5日以上設定する。	